

## 第 89 号

令和5年1月10日 発行

## 茶業会議所広報

発行所

(公社)静岡県茶業会議所

静岡市葵区北番町 81 番地

電話 (054)271-5 2 7 1 (代)

FAX (054)252-0 3 3 1

http://shizuoka-cha.com/

## ● 国庫事業【持続的生産強化対策事業】 ●

## 「若い世代にむけたお茶の需要創出」

10代半ばから20代半ばの若い層に向け、香りと色、味わいなどの特徴が分かりやすいお茶の新商品の開発を進めています。また、地元の菓子メーカーと連携して、お茶を使った新たなスイーツ類の開発や、お茶とスイーツの相性の検討、さらに、消費者調査を重ねながら新規需要の創造に取り組んでいます。



## 「しずおか有機茶バリューチェーン構築事業」

国が策定した「みどりの食料システム戦略」において、有機栽培の面積の拡大が掲げられる中、茶においては、生産から販売までの多くの課題があります。有機茶の輸出を増やすため、茶流通販売事業者及び茶生産者が連携し、県内11か所に栽培実証圃を設置。品種試験や栽培技術の検討を行うとともに、市場調査などを実施し、生産から販売までの流通経路のモデルの確立を進めています。有機茶生産拡大に向けた課題解決及び生産から販売までのバリューチェーンの構築を目指しています。



## ● 国庫事業【販路新規開拓緊急対策事業】 ●

産地ごとに特徴のある静岡茶産地の維持発展を図り、多様で高品質な茶について、学校給食での提供を進め、子供を通じて家庭内の消費拡大や販路の新規開拓を進めるため、当事業を活用しました。静岡県や新潟県内の教育委員会と連携し、県内の小中学校、特別支援学校、妙高市、上越市の小中学校などを対象に配布を行いました。お茶の歴史や生産、効能効果などに関心を持ってもらおうと共に、日常的にお茶を利用してもらうよう理解増進を図りました。



## ● 県事業【ChaOIプロジェクト推進事業】 ●

## 「スポーツとお茶」～味や香り、効能を使った活用の促進～

ヨガやフィットネス、ウォーキングなどの様々なスポーツのシーンにおいて、茶の活用を図ることを目的に、取り組みを進めています。アスリートやスポーツインストラクターの方々、学識者の先生方にご協力いただきながら、ジャンルに合わせて、取り組みしやすく、より効果的なお茶の利用について、モデルケースの作成、消費者調査、勉強会などを重ねています。

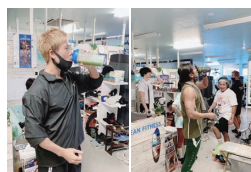
さらに、運動生理学を専門とする先生による「スポーツとお茶セミナー」の開催、併せて茶学の先生、アスリートでありながら茶道家という道を歩んでいる先生方による鼎談『スポーツとお茶の世界を結ぶ』の動画配信を実施しました。



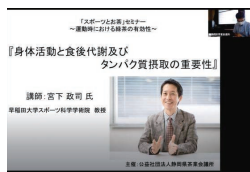
疲労回復ヨガ (ZEROGYM)



ハイキング～ヨガ (市之瀬の里)



フィットネスGYM (静岡市)



オンラインセミナーの開催



鼎談の動画配信

## 上川会頭と茶W意見交換会の開催

茶業に関わる女性を中心とした「茶W」プロジェクトにて、上川会頭との意見交換会を令和4年5月28日に開催しました。茶商、茶生産者、日本茶インストラクターなど、各々の立場での課題や問題点、未来に向けての発想や提案などについて、意見交換を行いました。



## ◆ 令和4年度予算 ◆

令和4年度の茶業振興費については、下記のとおりです。

### 1 茶業振興費の徴収

茶業振興費の徴収方法は、従価制とし、茶業会議所・会員及び茶業会議所が徴収を委託した(株)静岡茶市場が徴収する。

### 2 茶業振興費の負担額

(1) 生産割 売り手（生産者）が負担し、徴収者に預ける。

粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価－粉引額）×0.1%

(2) 宣伝割 売り手（生産者）、買い手がそれぞれ負担し、徴収者に預ける。

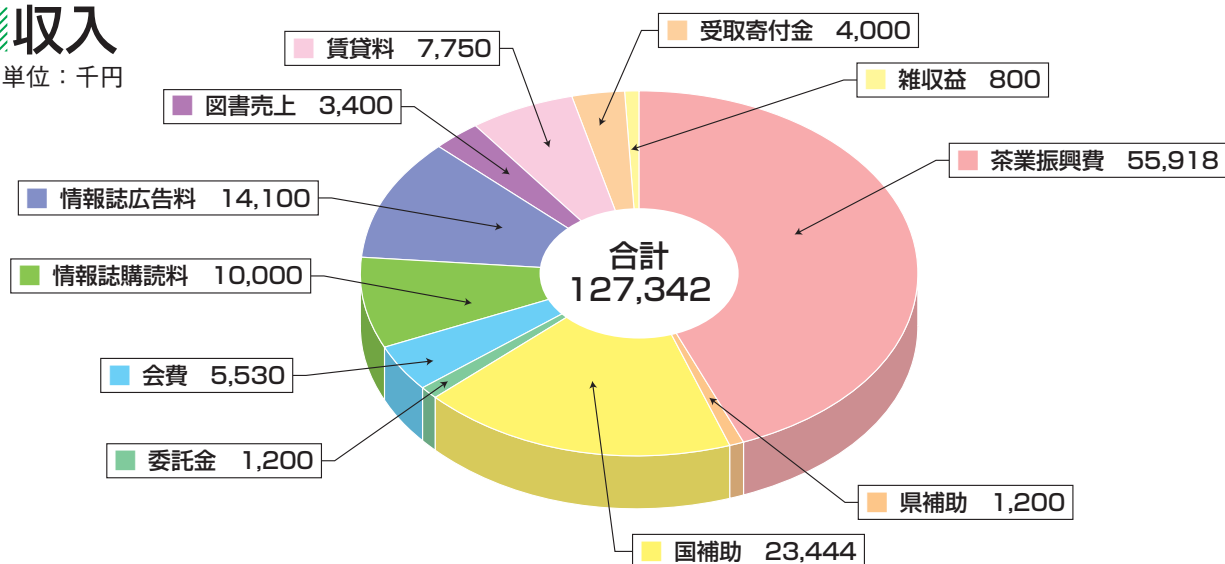
売り手負担分：粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価－粉引額）×0.18%

買い手負担分：粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価－粉引額）×0.18%

■ 皆様の茶業振興費は、このように使われます。(R4.3.28 理事会で承認)

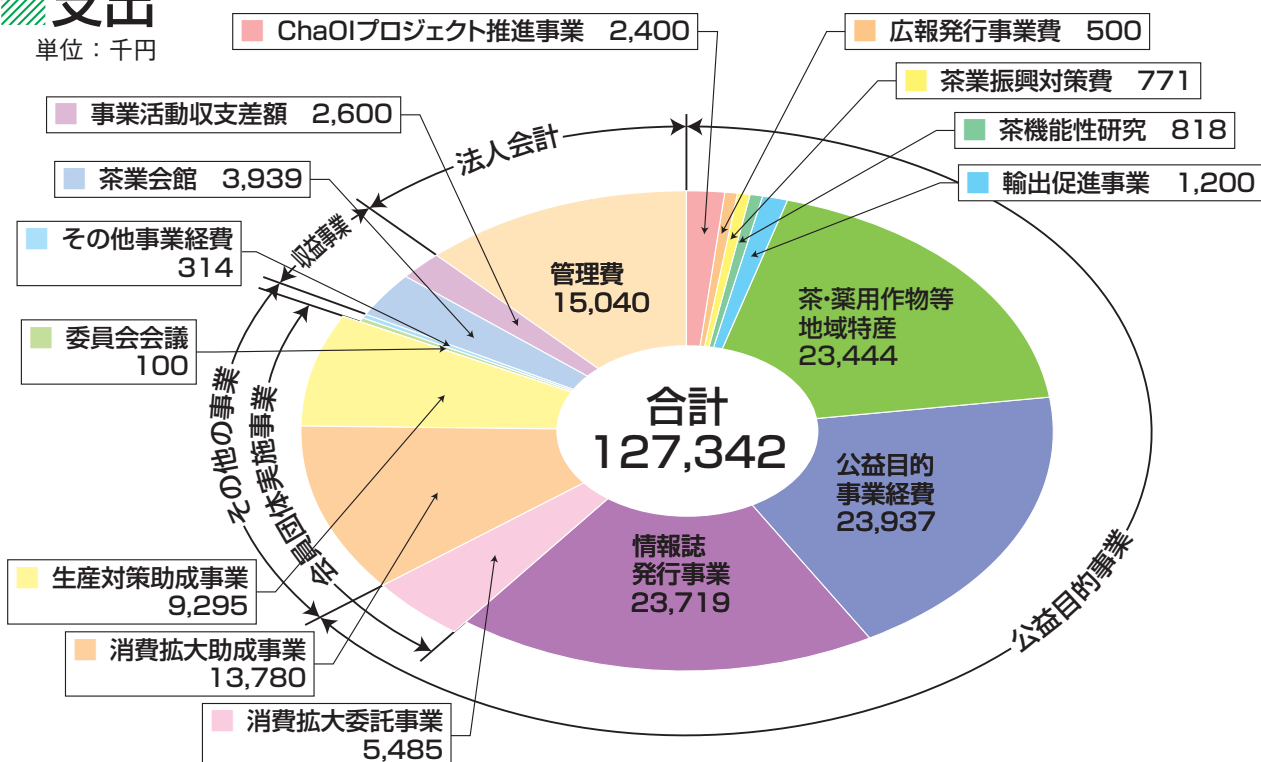
### 収入

単位：千円



### 支出

単位：千円



# 令和4年度事業計画

## 1 公益目的事業

### I 茶と人フロンティア静岡会議推進事業

#### (1) ChaOIプロジェクト推進事業

##### ア しずおか茶需要拡大事業

「静岡茶屋」の女性を中心とした「茶Wプロジェクト」と異業種が連携した、新たな静岡茶利用の拡大のための商品開発や販売方法の検討を行う。「スポーツとお茶」をテーマにお茶の持つリラックス効果や心身を整える効果など、お茶の持つ魅力について、お茶を飲まない方々への情報発信を更に強化し、「お茶好き」を拡大していく。

#### (2) 茶業振興事業

##### ア 広報・情報収集、発信事業

本会が実施している事業の告知のため、広報誌を発行する。

##### イ 茶業振興対策事業

茶業功績者表彰、県内各地で開催される各種茶業大会、品評会等への表彰状・副賞の交付を行い、茶業の振興に資する。

Shizuoka Green Tea Guideなど静岡茶の価値について内外への情報発信を促進する。

東海道22次の宿場町の「岡部」を最初の宿場として、岡部の朝比奈玉露を中心にお茶の魅力を幅広い世代へPRするとともに、東海道の起点である東京（日本橋）等の店舗においてもPRを進めていく。

##### ウ 茶の効能研究等事業

静岡県立大学茶学総合研究センターに調査研究及び人材育成を行うため、奨学寄附を行う。

茶学術研究会と協同して、茶の機能性について、一般向けに分かり易くPRし、静岡茶の更なる消費の拡大と理解に努める。

#### (3) 国庫事業「茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業」

##### ア しずおか有機茶プロジェクト

国の「みどりの食料システム戦略」に伴い、県内の茶流通販売事業者と地区内の茶生産者が連携し、有機栽培の生産から販売までの実証等のモデル的な取組を進める。

##### イ 若い世代に向けたお茶需要創出

10代半ばから20代半ばの層を中心に、若者に分かりやすいお茶の商品開発とお茶を使った新たなスイーツ類の開発を行い、新規需要の創造を進める。

#### (4) 日本茶輸出促進協議会事業

抹茶のモデル地区を各3か所設置し、有機栽培の状況確認、農薬及び成分分析を行う。

#### (5) 情報誌・茶業図書の発行事業

##### ア 月刊誌「茶」の発行

月刊誌「茶」は、茶の総合誌として生産から流通に至る茶業全体を視野に入れた編集に心掛けるとともに、茶業関連情報発信の源として内容の充実に努める。

##### イ 茶業関連図書の発行と販売について

「新版 茶の品種」、「茶生産の最新技術(製造編)」、「新

改訂版・目で見える茶の病害虫」をはじめとした茶業関連図書の販売に努める。

#### (6) 委託事業

##### ア 静岡茶消費拡大委託事業（県茶商へ委託）

静岡茶の販売力強化を図るため、茶どころ静岡のPRに努め、本格的な緑茶ファンの獲得と茶専門店の活性化のための普及推進事業やリーフ茶の需要を喚起するための需要開拓を図るため、静岡県茶商工業協同組合へ委託して事業を実施する。

## 2 収益事業

業界の拠点として、広く茶業者に利活用できるような明るい環境を整えるとともに、静岡県茶業会館の保全維持・管理ならびに円滑な運営を図る。

## 3 その他事業

#### (1) 委員会等開催費

理事会、財務委員会・事業委員会、事務連絡会等を開催し、茶業振興策を検討するとともに、団体間の連絡調整を図る。

#### (2) 会員団体助成事業

##### ア 生産対策助成事業（県経済連へ助成）

安定した静岡茶生産を実践するため、生産指導を実施し、生産者と実需者とのマッチングに取り組み、国内外の消費者に安全・安心・良質で多様な静岡茶を供給するための栽培・製造指導各種研修会を開催する。茶工場の経営強化、低コスト化に向け維持管理指導を実施するとともに基盤整備や改植の推進、品質安定や特色ある茶生産のための茶品評会開催など、静岡茶ブランドの強化を図る。

有機栽培茶の生産拡大に向けた取り組みを行い、併せて国内外において静岡茶の販売力強化を図るため、静岡茶をPRするとともに、要望に応じた生産及び商品開発により静岡茶の消費拡大を図り、生産者所得の向上に向け取り組むため、静岡県経済農業協同組合連合会へ助成事業を実施する。

##### イ 静岡茶消費拡大助成事業（県茶商へ助成）

静岡茶産地の魅力や消費者ニーズに合わせた情報を発信するとともに、茶の安全・安心への取り組みの徹底を図るための情報提供や茶の知識や技術向上を図るための各種研修会を開催し、静岡県茶業の発展に努めていくため、静岡県茶商工業協同組合へ助成事業を実施する。

## 4 その他関連事業

#### (1) 静岡茶消費拡大推進協議会

静岡茶の需要創出と消費拡大を主旨とし、県内の茶業関係団体が、緊密な連携の下に、オール静岡の体制で、これまで築いた人のつながりを最大限に活用しながら、首都圏等の大手量販店や茶の商工業組合と連携した販売促進事業を実施する。

・大消費地における静岡茶の販売促進事業



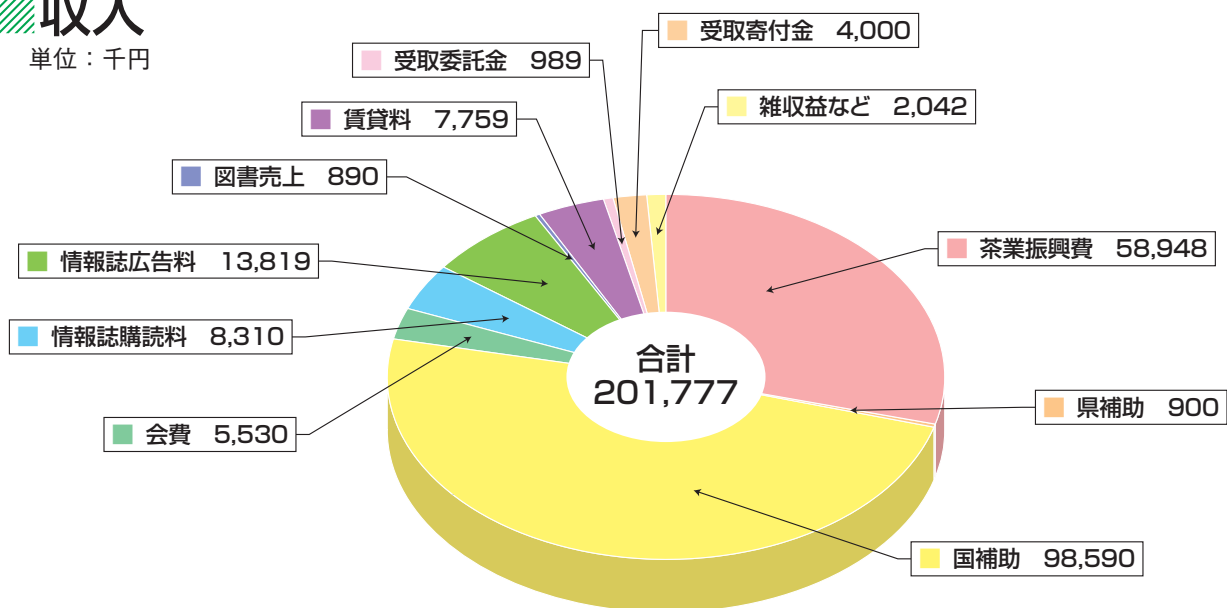
## ◆ 令和3年度決算 ◆

令和3年度事業につきましては、令和4年6月27日(月)に開催した総会において承認されました。

■ 皆様の茶業振興費は、このように使われました。

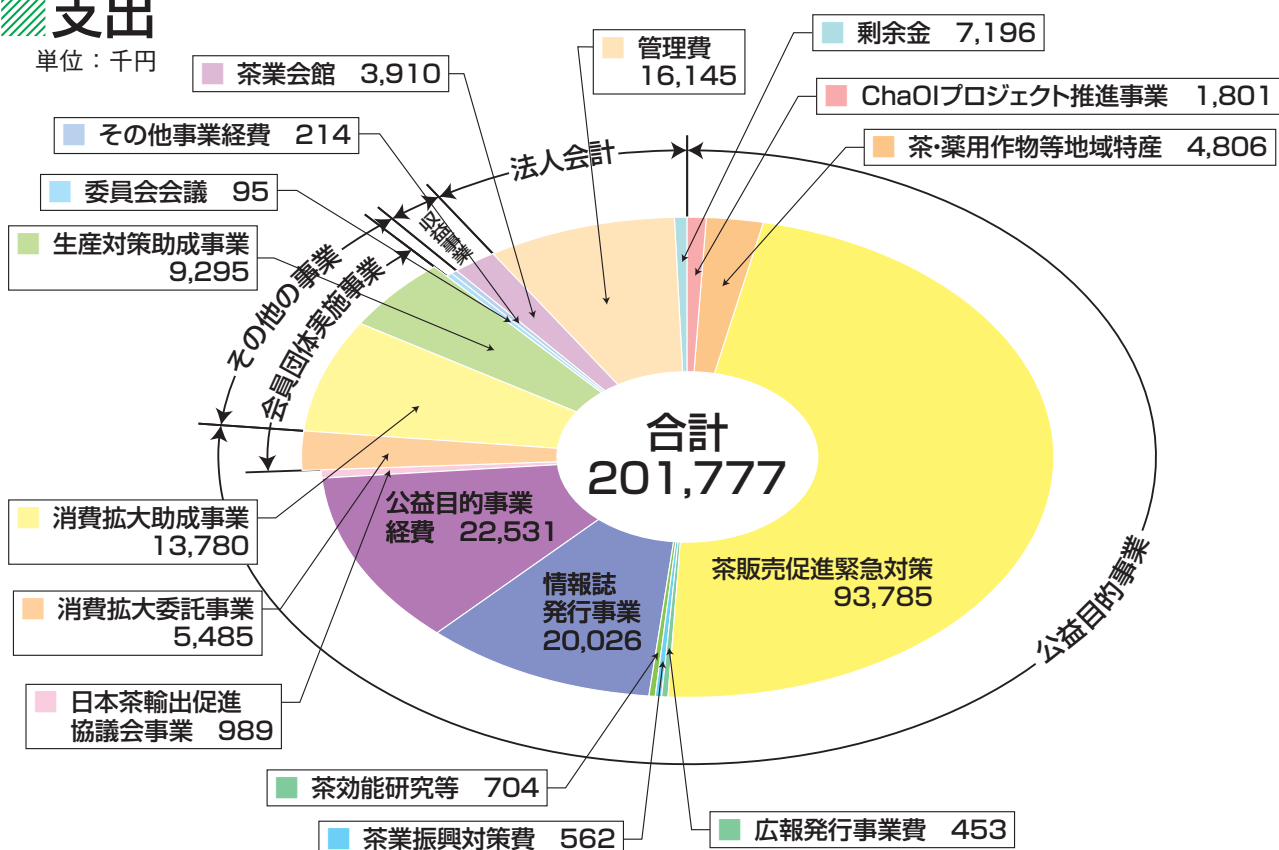
### 収入

単位：千円



### 支出

単位：千円



# 令和3年度事業報告

## 1 公益目的事業

### I 茶と人フロンティア静岡会議推進事業

#### (1) ChaOIプロジェクト推進事業

##### ① しずおか茶需要拡大事業

ア 新発想による新たな商品展開の推進

(ア) 「静岡茶屋」による味や香りに特徴のある美味しい静岡茶の展開促進

a 「茶W (ダブルユー)」の設立

消費者に一番近い現場に立ち、活躍する女性たちの自由な発想の意見交換や新しいコミュニティづくりを設け、消費者目線での商品開発や販路開拓につなげていくため「静岡茶屋」の女性を中心とする「茶W」を設立し、検討会及び意見交換会を実施した。

お茶の多様な楽しみ方を検討するため、「刻音」(沈殿抽出式ティードリッパー)に合うお茶の開発を進め、3社のお茶を使い、三者三様に個性があり、価値があるお茶を検討、選抜し、3茶飲み比べセットを作成した。

b 販路開拓セミナー

女性活躍推進により、消費者目線での意見や発想を生かすことの重要性を異業種の事例を交えながら広く周知し、消費者目線の商品開発につなげていくことを目的にキャリアコンサルタントに「イノベーションを起こす女性の力」と題し講演してもらい、茶Wプロジェクトメンバー茶商2名を交えたディスカッション「十人十色 自分らしく働く方法」を撮影し、Youtubeにて動画配信を実施した。

c お茶×味わいフルネス

お茶と食の味わい方を深めるため、五感を使う味わい方や消費者への伝え方、お茶とのペアリングについての講座「お茶×味わいフルネス」を実施した。

(イ) 「静岡県食の仕事人」と連携した静岡茶の利用促進  
ふじのくに食の都づくり仕事人と連携し、価値のある静岡茶の魅力を引き出し、飲食店、菓子店等での新たなメニュー化・商品化を推進するため、各茶産地の農家や茶商を訪れるフィールドワークを6回実施した。

イ 緑茶人間の拡大 ～若者目線による静岡茶再発見～  
「お茶×マインドフルネス」の可能性を推進するために、お茶と写典及びお茶とヨガ体験を各地で実施するとともに「お茶×マインドフルネス」のスタイルを提案するため、愛知県の岩津天満宮において写典やお茶を淹れる様子等を動画撮影、編集を行い、HP及びSNS、Youtubeにおいて配信、公開した。さらに、広く周知するため、リーフレット「Mindfulness with Tea」を10,000部作成した。

#### (2) 茶業振興事業

##### ① 広報・情報収集、発信事業

ホームページを随時更新し、本会の活動状況を報告した。

##### ② 茶業振興対策事業

摘みたての新茶を知事に贈呈する「新茶贈呈式」や杉山彦三郎翁顕彰会功績者表彰、茶業功績者表彰、県内各地で開催される各種茶業大会、品評会等への表彰状・副賞の交付を行った。コミュニティサイト「Shizuoka Green Tea Guide」による情報発信を行った。

##### ③ 茶の機能性研究等事業

県立大学茶学総合研究センターにおける調査研究及び人材育成を行うため、奨学寄附を行った。

茶学術研究会と協同で、WEBセミナー「お茶の抗ウイルス性とストレス緩和～with/afterコロナ時代を生きる」の動画配信をYoutubeにて行った。

#### (3) 国庫事業「茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業」

リーフ茶需要の減少による茶価の低迷で深刻な打撃を受

けている「山のお茶」について、消費者や実需者の興味を引き付ける味や香りに特徴のある新製品を開発し、淹れ方や産地の映像、目的の料理に適したお茶の選択情報等を付加した商品化を進めた。

#### (4) 国庫事業「国産農林水産物等販路多様化緊急対策事業」

一番茶の品質の高いリーフ茶について、味覚に鋭敏な若年層に対して、その魅力を広く情報発信するため、静岡経済連と分担して県下全小中学校、特別支援学校及び新潟県、東京都の小学校の学校給食等での活用を図り、12万6,820人分、11トン414kgの送付を行なった。また、お茶の健康成分やおいしく淹れるポイントについてQRコードで広く周知したところ、授業で活用したり、普段お茶を飲まない子においても貴重な機会になった等、好評を博した。

#### (5) 日本茶輸出促進協議会事業

日本茶輸出促進協議会からの委託を受けて、輸出向けの抹茶製造の実証栽培を実施した。

#### (6) 情報誌・茶業図書の発行事業

##### ① 月刊誌「茶」の発行

月刊誌「茶」は、茶の総合誌として生産から流通に至る茶業全体を視野に入れた編集を心掛けるとともに、茶業関連情報発信の源として内容の向上に努めた。

##### ② 茶業関連図書の発行と販売について

市場のニーズに応え開発された注目の戦略品種等を追加して「新版 茶の品種」や、「新改訂版・目で見る茶の病害虫」をはじめとした茶業関連図書の販売をした。

#### (7) 委託事業

##### ① 静岡茶消費拡大委託事業 (県茶商へ委託)

静岡茶の販売力強化を図るため、茶どころ静岡のPRに努め、本格的な緑茶ファンの獲得と茶専門店の活性化のための普及推進事業やリーフ茶の需要を喚起するための需要開拓を図るとともに、静岡茶の消費拡大を目的とした宣伝・啓発活動を実施するため、静岡県茶商工業協同組合へ委託事業として実施した。

## 2 収益事業

業界の拠点として、広く茶業者の利活用できるよう明るい環境を整えるとともに、静岡県茶業会館の保全維持・管理ならびに円滑な運営を図った。

## 3 その他の事業

#### (1) 委員会等開催費

財務委員会・事業委員会を開催し、諸振興策を検討し、団体間の連絡調整を図った。

#### (2) 会員団体助成事業

##### ① 静岡茶消費拡大助成事業 (県茶商へ助成)

リーフ茶の需要減少が続く中、新たな需要開拓に向け様々な情報収集・提供を行い、後継者への育成事業や青年団を活用した静岡茶消費拡大事業を積極的に行った。また、行政・生産の団体と協力・連携を図りながら、静岡茶普及に向けた取り組みにも努めた。

##### ② 生産対策助成事業 (県経済連へ助成)

安定した静岡茶生産を実施するため、生産者と実需者とのマッチングに取り組み、国内外の消費者に安全・安心・良質で多様な静岡茶を供給するための栽培・製造、その他茶関係情報提供に関する各種研究会を開催した。併せて茶工場の経営強化、低コスト化に向け、管理指導の実施、安定生産に向け基盤整備や改植の推進、品質安定や特色ある茶生産のための茶品評会への出品指導など静岡茶ブランドの強化を図った。また、国内外において静岡茶の販売力強化を図るため静岡茶をPRするとともに、要望に応じた生産及び商品開発に取り組み、静岡茶の消費拡大に努めた。

## 4 その他関連事業

#### (1) 静岡茶消費拡大推進協議会

静岡茶の需要創出と消費拡大を主旨とし、県内の茶業関係団体が、緊密な連携の元に、オール静岡の体制で県内外に置いて販売促進事業を実施した。



## 令和4年度

### 令和4年度新茶贈呈式

摘みたての瑞々しい新茶を知事に贈呈し、新茶の魅力を発信するために、新茶贈呈式を開催しました。

令和4年5月10日 静岡県庁前



### 令和4年度杉山彦三郎賞の表彰

杉山彦三郎翁顕彰会は、令和4年5月2日、駿府城公園マロニエ広場において、慰霊式と功績者の表彰を行いました。(敬称略)

◇茶品種改良・普及功績賞 小柳 勤 (64)

◇茶業振興功労賞 落合 鍊作 (93) 代理出席



### 令和4年度茶業功績者の表彰

本県茶業の発展向上に顕著な功績のあった者や集団を表彰し、茶業の振興に資することを目的とする功績者の表彰を令和4年6月27日に行いました。(敬称略)

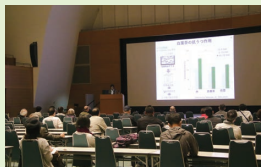
◇落合 益尚 (65)



### 世界お茶まつり2022への参加

3年に1度開催される世界お茶まつり。「春のお茶まつりウィーク」は令和4年5月1日(日)～5月15日(日)、ふじのくに茶の都ミュージアムを中心に、新茶フェアモデルコースの紹介や県内5つの鉄道会社と連携し、お茶×鉄道を楽しんでいただくプログラム、お茶と料理のレシピ紹介、消費拡大を目的としたイベントなどが県内外各地で開催されました。「秋の祭典」は令和4年10月20日～10月23日静岡県コンベンションアーツセンター グランシップにて、世界各国からお茶に関する「人」「もの」「情報」が集まるお茶の総合博覧会として様々な茶会やプログラム、コンテストやセミナーが開催されました。アウトドアやペアリングなどのコンテンツもあり、広い世代の消費者が集まりました。

(公社)静岡県茶業会議所は茶学術研究会と共催し、公開シンポジウム「Withコロナを健康に生きるために：お茶の抗ウイルス性とストレス緩和」を開催し、2名の先生方にご講演いただきました。また、「お茶とマインドフルネス」をテーマに「抹茶de書道」「お茶×ヨガ体験」の2つプログラムを実施しました。



公開シンポジウム



抹茶de書道



お茶×ヨガ体験

## 令和3年度

### 国庫事業【持続的生産強化対策事業】「山のお茶需要創出事業」

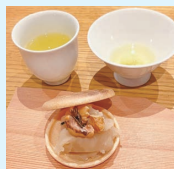
静岡県内の特に香りや滋味に特徴を有する産地である「山のお茶」に焦点を当て、魅力を伝えるために、お茶と料理や菓子とのマッチングの提案を進めました。消費者調査を重ね、ホテルのシェフ、観光事業者、一般消費者等に向けて、お茶と料理のペアリングに関する試食会の実施やペアリングチャートの作成等を実施しました。また、ドキュメンタリー調の現地風景や美味しい飲み方の動画を作成配信し、山のお茶需要創出を図りました。



R3年11月22日(鎌倉)



R3年11月25日(笹間)



R4年1月11日(鎌倉/川崎)



「山のお茶動画」



「山のお茶淹れ方」

### 県事業【ChaOIプロジェクト推進事業】「お茶とマインドフルネス」

お茶が持つ特徴を活かし、「マインドフルネス」をテーマにした様々なコンテンツにお茶を取り入れた体験会を開催しました。消費者を巻き込みながら、ヨガや写真、食の味わい方やテントサウナに併せてお茶を通した時間をプログラムし、異業種への提案に繋げました。



お寺ヨガ



お茶と食の味わい方



テントサウナ